

経営学特講

第11回 平成・令和期の日本経済 -「失われた30年」と構造改革-

2024年8月7日

斎藤 邦明

法政大学通信教育部

kuniaki.saito.88@hosei.ac.jp

今回の内容

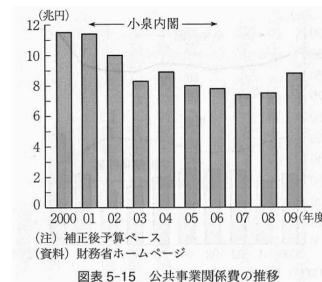
- 今回は、2000～現代（2010年代）の日本経済について解説する
 - 小泉内閣「構造改革」（2001～2006）
(以後、安倍晋三[2006-2007]、福田康夫[2007-2008]、麻生太郎[2008-2009]、民主党政権[2009-2012]、安倍[2012-2020]、菅義偉[2020-21]、岸田文雄[2021-])
 - リーマンショック（2008～2009）
 - 東日本大震災（2011）
 - アベノミクス（安倍晋三内閣の経済政策）
 - 現在の日本経済
 - まとめ：現代の日本経済をどのように見るか

2

小泉「構造改革」



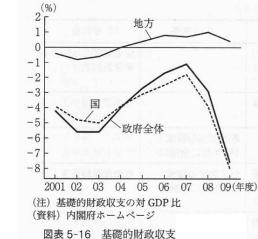
- 小泉純一郎内閣の「構造改革」
 - 橋本内閣、小渕恵三内閣、森喜朗内閣後、小泉純一郎が組閣（2001～2006年）
 - 「構造改革なくして成長なし」「聖域なき構造改革」
▶ 経済再生…不良債権処理
 - 「 」
 - 医療、教育等へ民間企業導入
 - 労働改革…（ ）など
 - 税制改革、地方財政改革
 - 社会保障制度、司法制度改革



3

小泉「構造改革」

- 小泉純一郎内閣の「構造改革」
 - 2002年、国債新規発行枠の上限（30兆円）
 - 2010年代における、（ ）目標とした
 - 予算の重点化、効率化、前年度の水準以下に抑える（事実上の「マイナスシーリング」）
 - 小泉内閣以後も、構造改革は継続
- 「構造改革」の成果
 - 「国債」の評価改善
 - 国債の返済は進まず



時 期	主 体	変 更	↑ / ↓
1998年 11月 17日	ムーディーズ	Aaa → Aa1	↓
2000年 9月 8日	ムーディーズ	Aa1 → Aa2	↓
2001年 2月 22日	S&P	AAA → AA+	↓
2001年 11月 28日	S&P	AA+ → AA	↓
2001年 12月 4日	ムーディーズ	Aa2 → Aa3	↓
2002年 4月 15日	S&P	AA → AA-	↓
2002年 5月 31日	ムーディーズ	Aa3 → A2	↓
2007年 4月 25日	S&P	AA- → AA	↑
2007年 10月 11日	ムーディーズ	A2 → A1	↑
2008年 6月 30日	ムーディーズ	A1 → Aa3	↑
2009年 5月 18日	ムーディーズ	Aa3 → Aa2	↑

4

2000年代の世界経済

- ・2000年代（2003～2007）、世界経済は好況
- ・先進国…アメリカの（ ）による好況。いわゆる（ ）
- ・発展途上国・新興国の発展…（ ）



5

サブプライム・ローン subprime loan (lending)

- ・サブプライム・ローン
 - ・subprime…信用の低い
 - ・loan (lending) …貸付
 - 低所得で（ ）
- ・どういう仕組み？
 - ・最初は低金利で貸し付けを行い、数年後（約3年目）以降は支払額が増額するという仕組み
 - ・低所得者向けのローンは（ ）
(=不良債権化) が潜在的に高いが、「 」という方法を用いて、リスクを分散化
➤証券市場での信頼を確保（できると言われていた）
 - ・2000年代にアメリカで（ ）が発生

6

サブプライム・ローン subprime loan (lending)

- ・サブプライム・ローンの「証券化」
 - ・アメリカでは住宅ローン（mortgage loan）を証券化するという手法が広く普及していた
 - ・（ ）（financial engineering）が生み出した（ ）という方法を使った
- ・仕組み債（Structured Bond）とは
 - ・複数のサブプライムローン債券を1つにまとめて、（ ）（RMBS : Residential Mortgage Backed Security）を作る
 - 個々では信用力の低い債券をまとめることで、信用力の高い商品を創り出した

7

リーマン・ショックの発生 （「100年ぶりの恐慌」）



伊藤正直
なぜ金融危機はくり返すのか

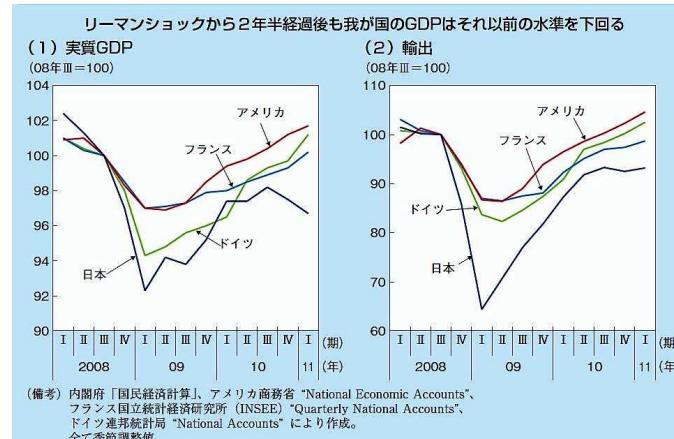
- ・リーマン・ショックの発生
 - ・2006年ごろから住宅価格上昇率が鈍化
 - ・（ ）
 - ・2007年、アメリカの住宅ローン会社や投資銀行（Bear Stearns）が経営危機に
➤貸付金の回収が困難になったから。日本のバブル経済崩壊と同じく（ ）問題に
(不動産会社、銀行が相当いい加減な貸し付けを行っていた。映画「マネーショート」(The Big Short) でその様子が描かれている)
 - 2008年9月、大手投資銀行（ ）が倒産を申請
 - ✓（ ） (=)

8

東日本大震災発生前の日本経済

- 2008年9月、リーマン・ショックが発生

先進国で()



9

東日本大震災の発生

- 東日本大震災のデータ（気象庁ホームページ）

地震名	「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」
地震発生時刻	平成23年3月11日14時46分
発生場所（震源位置）	三陸沖（北緯38度06.2分、東経142度51.6分、深さ24km）
規模（マグニチュード）	9.0（モーメントマグニチュード）
最大震度	7（宮城県栗原市）

- 東日本大震災の震源地である三陸沖は、たびたび地震を起こしてきた
- 明治三陸沖地震（1896年）マグニチュード8.2-8.5
- 昭和三陸沖地震（1933年）マグニチュード8.1

10

東日本大震災後の日本経済

- 東日本大震災が日本経済に与えた影響
 - ()（供給網）の破壊

東北地方は製造業の部品、農林水産業などの重要な供給拠点

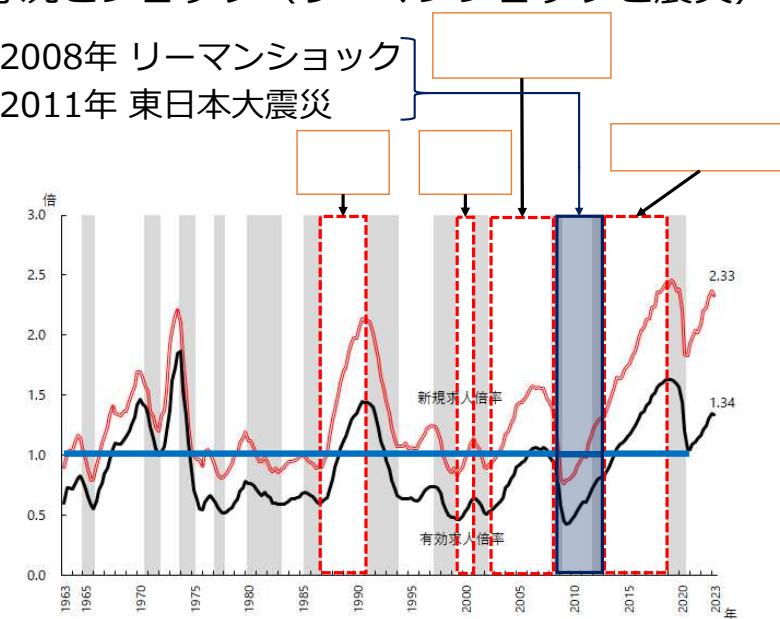
2016年ごろから()



11

好況とショック（リーマンショックと震災）

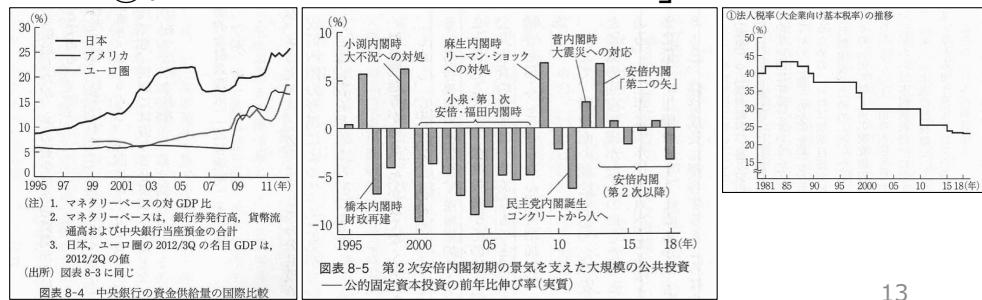
- 2008年 リーマンショック
- 2011年 東日本大震災



12

アベノミクス（安倍内閣の経済政策）

- ・第2次安倍内閣の経済政策（「アベノミクス」）
 - ・目標：名目経済成長率3%、物価成長率2%
 - ・①「
」
 - ・②「
」
 - ・③「
」



13

アベノミクス

- ・安倍内閣の経済政策
 - ・内閣改造（2012-14, 14-15, 15-20）後、アベノミクスは「第2次ステージ」へ（？）
 - ・労働改革（「働き方改革」）、外国人労働者の受入、消費税増税と社会保障制度改革など
- ▶アベノミクスの掲げた目標と実際 = 単年度では達成した年もあるが、期間通じては（ ）
- ・目標との関係では、評価は失敗か

図表 8-10 一般会計収税の推移
(単位：兆円)

年度	税収合計	消費税	所得税	法人税
2013	47.0	10.8	15.5	10.5
2014	54.0	16.0	14.0	11.0
2015	56.3	17.4	17.8	10.8
2016	55.5	17.2	17.6	10.3
2017	58.8	17.5	18.9	12.0
2018	59.9	17.8	19.5	12.3
2019	62.5	19.4	19.9	12.9



14

現在の日本経済：アフターコロナと物価高

- ・日本銀行「経済・物価情勢の展望」（2024年4月26日）

・2018→2019年、景気後退

▶コロナ以前から景気は後退傾向

▶2019年（ ）の影響

・2020年のGDP成長はマイナス

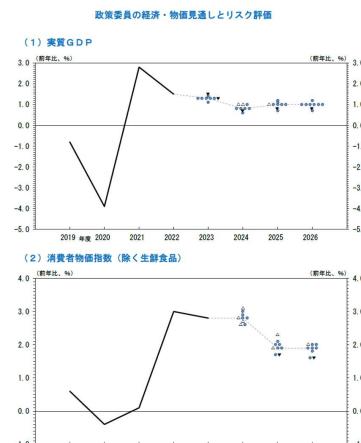
・2023年1.4%

・2024年0.8%前後の成長

✓物価上昇は2%程度

✓個人消費は下振れが続く

✓リスク：海外の動向、資源価格



15

まとめ：現在の日本経済をどうみるか？

- ・日本の経済成長は極めて低調

・議論百出：「長期停滞」「衰退」（途上国化）悲観が多い⇨変化に目を向けることが重要

・世界的潮流…第4次産業革命（IoT, メタバース：情報空間上の経済フロンティア）、脱炭素（グリーン革命）、新たな経済・技術への対応（start-up）



おわりに

- ・小泉内閣「構造改革」で、規制改革が実施された。財政再建では地方財政は基礎的財政収支を黒字化したが、国家財政では未達成であった
- ・2000年代、世界経済はアメリカの好況、中国・インドなどの成長により、好況であった
- ・しかし、アメリカの好況はサブプライムローンによるもので、仕組み債によるリスク回避の仕組みも、債権の焦げ付きにより、機能不全に。世界金融危機を発生させた
- ・リーマンショック、東日本大震災などの集計的ショックに見舞われた日本経済は、アベノミクスなどの展開はあるが、成長は依然として低調

17

本講義の要点：日本経済の「現代化」

- ・日本社会・経済の**複層性**
 - ・平成・令和時代（「失われた30年」）
 - ・政治：総力戦体制期に形成された**官僚主導性**の限界。アメリカ型の政治主導性を一部模倣（**官邸主導**）するも、不安定な政治運営に
 - ・経済：中進国から先進国へと経済成長。先進国経済としての成熟。中途半端な産業転換
 - ・社会：都市を中心とした企業社会（「家」の亞種としての**男性稼ぎ主型家族モデル**）、農村などの地域社会（「村」制度の経路依存）の限界
 - 現代日本は近世・近代社会の制度と「総力戦体制」が部分的に残り、**現在の社会・経済とミスマッチを起こしている**状況（遅々としながら、少しづつ変化している…？）¹⁸